

ナカイムラの暮らし (古墳・奈良時代編)

縄文時代中期ににぎわっていたナカイムラは、縄文時代後期には廃れていきます。その後、古墳時代後期(約1500年前)と、奈良時代(約1250年前)に住居がつけられます。

古墳時代後期

住居跡

住居跡は、地面を掘りくぼめてつくる竪穴式です。形は方形で壁にはカマドを設けて煮炊きをしています。柱は4本立てられ、カマドのそばには貯蔵穴を備えています。



⑥



貯蔵穴 食料などを貯えていた穴

生活用品

煮炊きや食料を盛り付ける土器は、素焼きで土師器と呼ばれています。



土師器の坏



土師器の甕

奈良時代

住居跡

奈良時代の住居跡も、地面を掘りくぼめてつくられています。北側の壁にはカマドが設置されています。



⑦

生活用品



須恵器の坏と土師器の甕

土師器のほか、専用の竈で焼かれた須恵器とよばれる灰色の土器も使われています。



並べたように出土した須恵器の坏。右側は2枚重なっています。

ナカイムラへようこそ



発見!! 縄文時代中期の環状集落

上尾市

中井遺跡(第1次調査)

中井遺跡では一般国道17号(上尾道路)の建設に先立ち、発掘調査が行なわれています。遺跡は荒川の支流である江川をのぞむ上尾市大字領家の台地上に立地しており、標高は約14mです。

調査の結果、数多くの縄文時代の住居跡や土器が発見され、縄文時代中期(約4500年前)の集落が環状につくられていたことがわかってきました。

そのほか、古墳時代後期(約1500年前)や奈良時代(約1250年前)の住居跡も発見されています。



主催 埼玉県教育委員会
共催 上尾市教育委員会
協力 国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所・公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団



ナカイルラの暮らし (縄文時代編)



じゅう きょ あと 住居跡

縄文時代中期の住居跡は、調査区中央から南にかけて環状にまとまって見つかっています。住居跡は、地面を掘りくぼめてつくる^{たてあな}竪穴式で、円形や隅丸方形をしています。



同じ場所に繰り返し建てられた住居跡。3軒以上の住居跡が重なっています。



住居跡の床面からは、柱の穴がたくさんみつかっています。建て替えていくうちに増えていったと考えられます。



住居跡の中央の炉跡に埋められた土器と、入口部分に埋められた土器。入り口部の施設は、^{うめがめ}埋甕とよばれています。



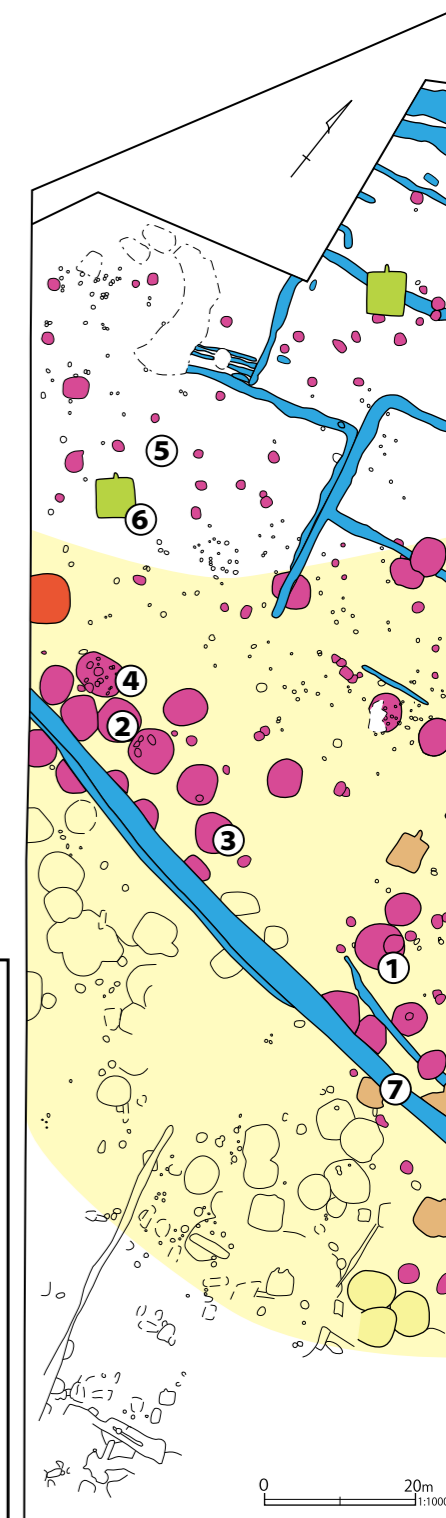
この土壌の底には、土器の破片が敷き詰められています。

ど こう 土 壙

縄文時代中期の土壙は、おもに住居跡がつかられていない場所から見つかっています。お墓や、貯蔵施設などと考えられます。



縄文土器が、そのままの形で埋まっていた土壙もあります。



ろ あと 炉 跡

住居跡の中央付近には、^{だん}暖を取ったり、調理をするための場所である炉が設けられています。



土器が埋められた炉跡



まわりを石で囲った炉跡。使われた石の中には石器を再利用したものもあります。



埋められた土器は、広い口縁部分が利用され、胴部から下は割りとられています。

生活用品

縄文時代の人々が使った生活用品が見つかっています。



住居跡からは、捨てられたと考えられる土器の破片が大量に出土します。



煮炊きに使われた深鉢形土器



食料の盛り付けなどに使用された鉢形土器

木を^{おの}伐る斧として使用された^{ませいせき}磨製石斧



アクセサリーも数は少ないですが、見つかっています。



上 垂飾(ペンダント)
左 耳飾(ピアス)

